



2019年12月期 第3四半期 決算説明資料

2019年12月期 第3四半期業績

損益計算書

単位：百万円

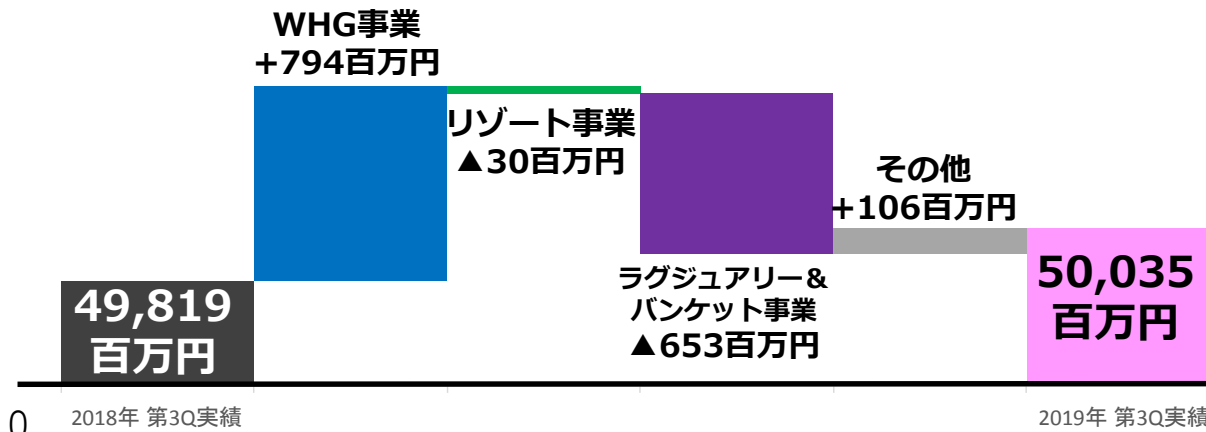
	2018年 第3Q実績 (1-9月)	2019年 第3Q実績 (1-9月)	前年比
売上高	49,819	50,035	216
営業損失	▲474	▲720	▲246
減価償却費等負担前営業利益	3,768	3,517	▲251
経常損失	▲351	▲593	▲242
親会社株主に帰属する四半期純損失	▲377	▲421	▲43

単位：百万円

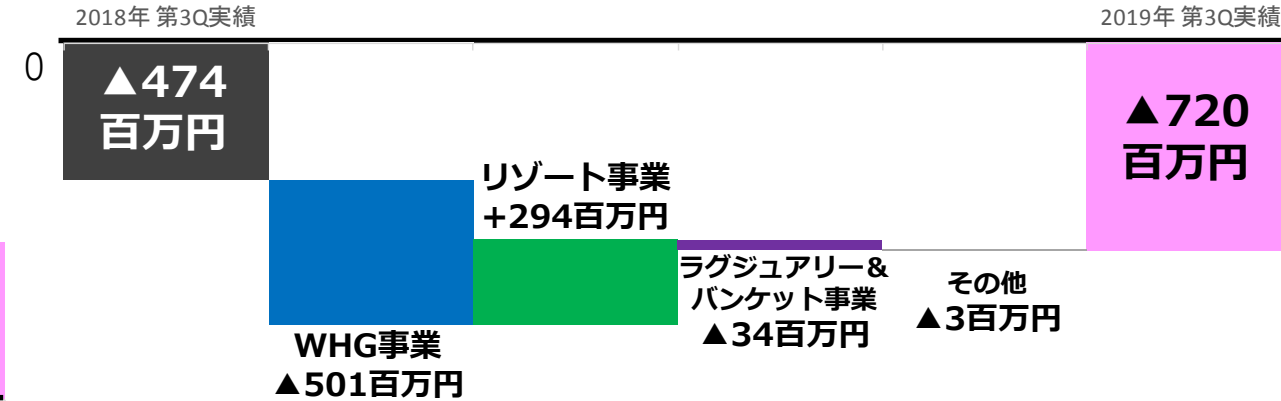
	売上高		営業利益	
		前年比		前年比
WHG事業	27,870	794	1,282	▲501
リゾート事業	4,308	▲30	▲408	294
ラグジュアリー&バンケット事業	15,727	▲653	▲966	▲34
その他および調整額	2,128	106	▲627	▲3

セグメント別 売上高・営業利益前年比

<売上高>



<営業利益>



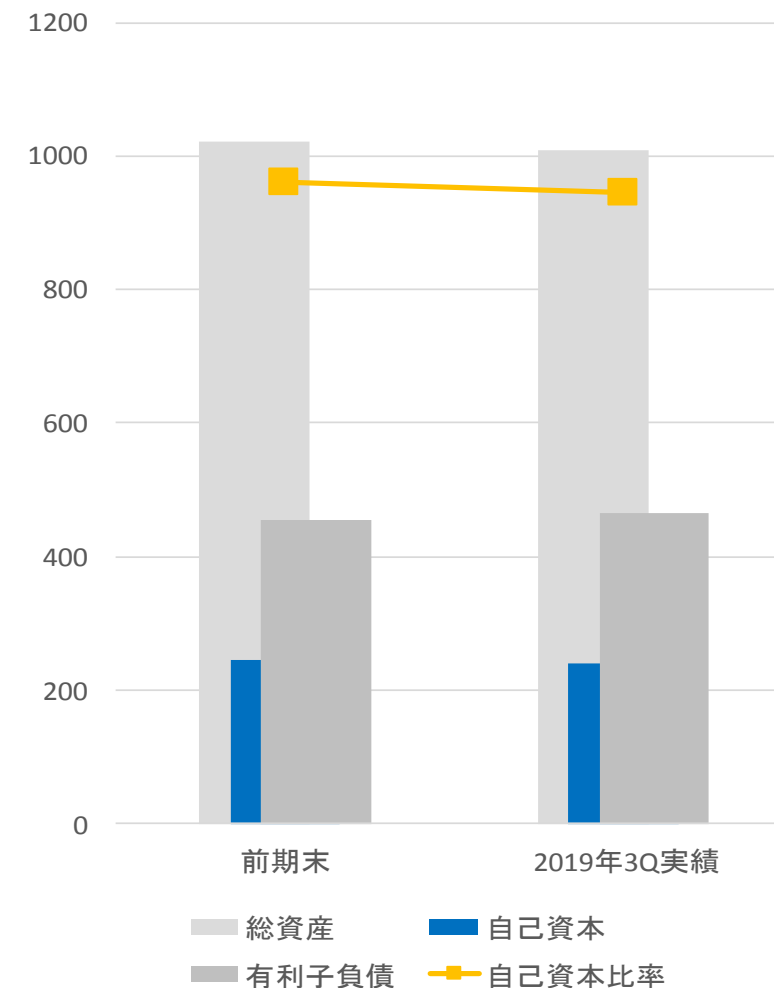
前年比Points :

- ・WHG事業：2018年開業のホテルグレイスリーソウル・浅草の通期稼働により増収。一方、2019年開業施設の開業費用（ホテルグレイスリー大阪なんば・ホテルタビノス浜松町・ISORAS CIKARANG）、関西エリアの一部におけるADR減少、東京ベイ有明ワシントンホテルの特殊要因（東京ビッグサイト営業エリア縮小）によって減益となる。
- ・リゾート事業：2018年1月営業終了の箱根ホテル小涌園の影響で減収となるが、箱根小涌園 天悠の宿泊単価・稼働率向上およびスタッフの生産性向上による収益力強化、箱根小涌園ユネッサンの入場人員回復によって増益となる。
- ・ラグジュアリー&バンケット事業：婚礼・宴会部門の減収によって減益となる。
- ・その他：新規事業の展開により減益となる。

以上の結果、全体では前年比増収減益となる。

貸借対照表

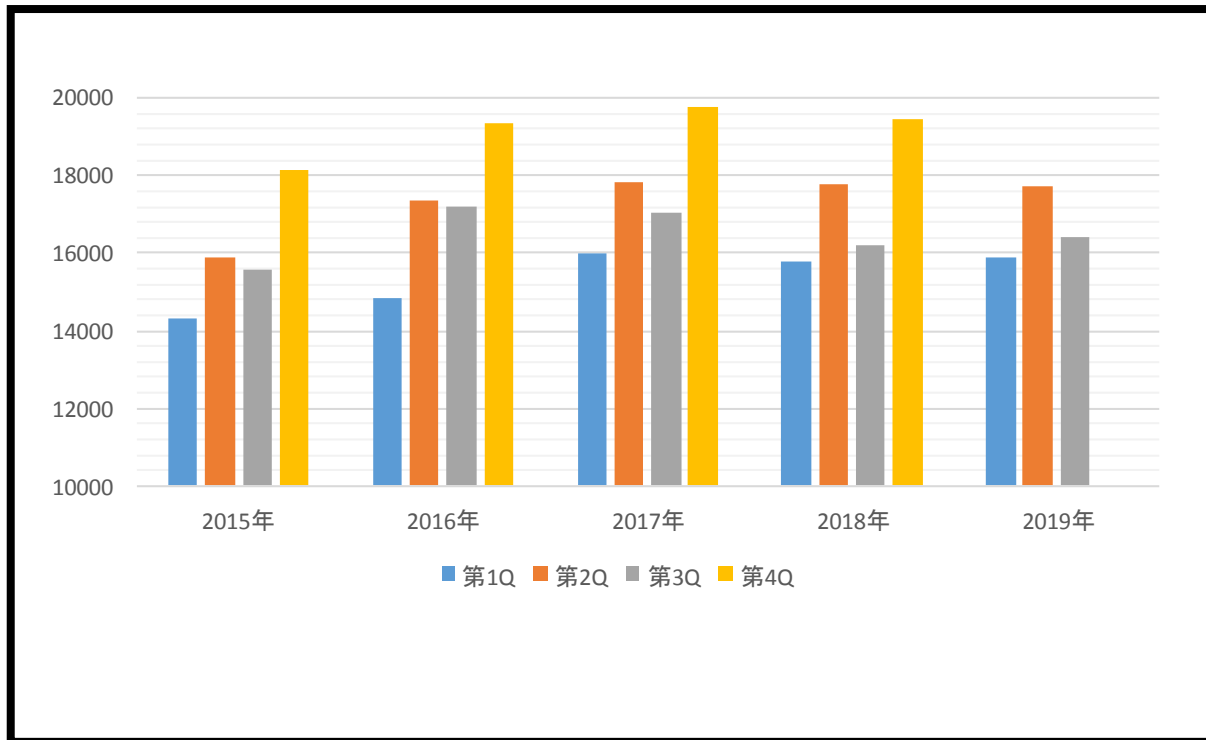
単位：億円、%	2019/12	前期末	前期末比
	第3Q実績		
総資産	1,009.6	1,020.4	▲ 10.8
自己資本	238.5	245.0	▲ 6.5
有利子負債	464.3	453.7	10.5
自己資本比率	23.6%	24.0%	▲0.4%



四半期別売上高・営業利益推移

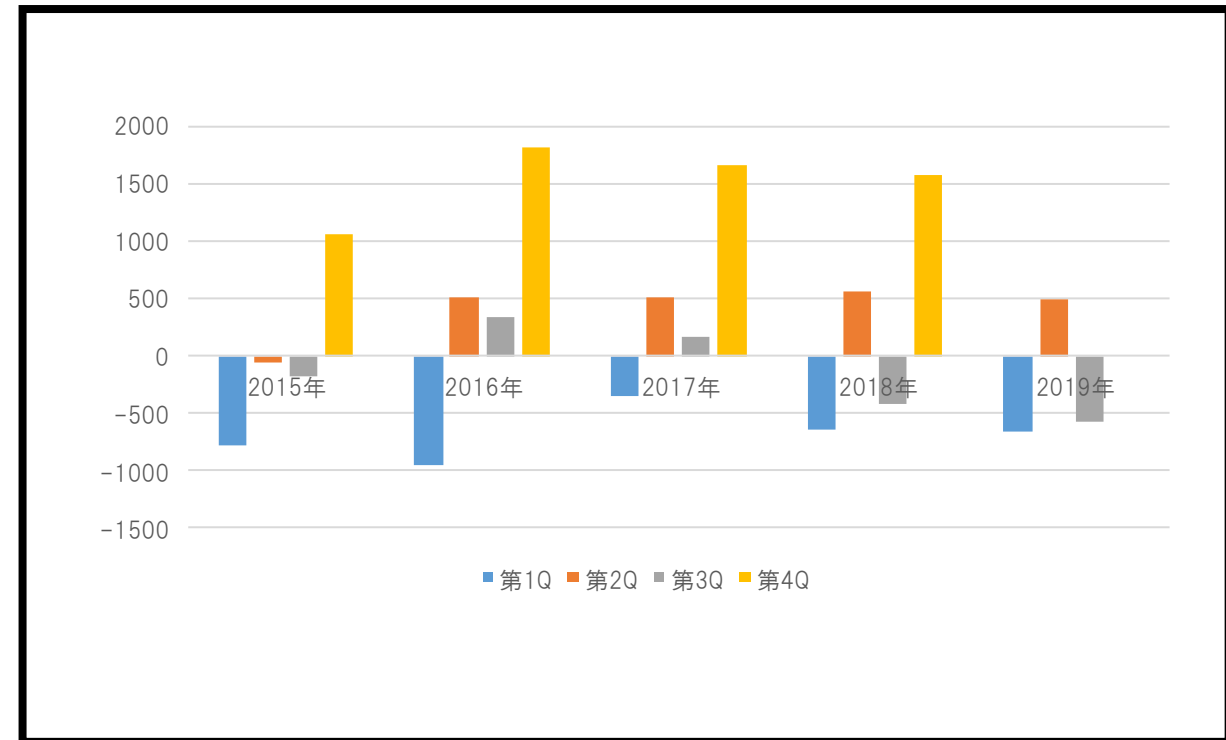
過去5年売上高推移

単位：百万円



過去5年営業利益推移

単位：百万円



事業セグメント概況

WHG事業

売上高・営業利益 前年対比

単位：百万円

	2019年 第3四半期 (1-9月)	前年比
売上高	27,870	794
営業利益	1,282	▲501

部門別売上高 前年対比

単位：百万円

部門	売上高	前年比
宿泊	23,357	804
レストラン・宴会・ その他	4,513	▲10

Points

ADR：平均客室単価

【第3四半期】

- ・日韓情勢悪化の影響を受け、韓国からのインバウンドの宿泊売上が前年比約50%減少。特に、韓国客の比率の高い札幌・HG新宿・福岡・那覇が大きく影響を受けた。
- ・韓国からのインバウンドの減少、それに起因した競合各社間でのインバウンド獲得競争が激化する中、中国からの取込を強化。稼働は確保したものの、単価差も影響し韓国のマイナスを補うまでには至らず。

【第4四半期】

- ・グループ共通対策として、海外AGT・国内AGTの早期予約取込を強化する。

【宿泊】 ADR・稼働率の前年および計画との対比（7月～9月）

	ADR		稼働率	
	前年比	計画比	前年比	計画比
合計	▲3.6%	▲5.2%	+2.3pt	▲2.2pt
首都圏	▲2.0%	▲3.4%	▲2.1pt	▲2.7pt
地方	▲5.4%	▲8.2%	+8.6pt	▲1.3pt

※ソウル・浅草含む、旭川・大阪なんば・ホテルタピノスを除く

売上高・営業利益 前年対比

単位：百万円

	2019年 第3四半期 (1-9月)	前年比
売上高	4,308	▲30
営業利益	▲408	294

部門別売上高 前年対比

単位：百万円

部門	売上高	前年比
宿泊部門	2,793	▲120
日帰り・レジャー	1,251	78
その他	263	12

Points

【第3四半期】

- ・箱根小涌園 天悠は、GW明けの箱根山噴火警戒レベル引き上げの影響により予約進捗が鈍化したが、インバウンドの獲得によって前年並みの稼働率を確保。
- ・箱根小涌園ユネッサンは、入場料金見直しと告知強化によって入場人員が前年比増となる。

【第4四半期】

- ・10/7に箱根山噴火警戒レベルが引き下げとなったが、その後の台風19号によって箱根エリアにおいて減収影響と施設面の復旧費用が発生。
- ・引き続き天悠では顧客満足度向上・単価アップ・生産性向上に注力し、ユネッサンではイベント開催とFIT取込によって入場人員増加を図る。

【宿泊】 宿泊単価・稼働率の前年および計画との対比（7月～9月）

	一人あたり宿泊単価		稼働率	
	前年比	計画比	前年比	計画比
箱根小涌園天悠	▲0.3%	▲5.2%	+0.4pt	▲1.9pt

【日帰り】 入場人員・単価の前年および計画との対比（7月～9月）

	入場人員		入場単価	
	前年比	計画比	前年比	計画比
箱根小涌園ユネッサン	+4.7%	▲9.7%	▲10.8%	▲5.6%

ラグジュアリー&バンケット事業

売上高・営業利益 前年対比 単位：百万円

	2019年 第3四半期 (1-9月)	前年比
売上高	15,727	▲653
営業利益	▲966	▲34

部門別売上高 前年対比 単位：百万円

部門	売上高	前年比
宿泊	1,614	57
婚礼	6,807	▲455
宴会	3,388	▲129
料飲	2,896	85
その他	1,021	▲211

Points

【第3四半期】

- ・ 宿泊部門は、海外ネットワーク活用等による国内外の個人客の取込やスイートルーム販売の好調が寄与し、ADRが上昇。
- ・ 婚礼部門は、ホテル椿山荘東京の人員減少傾向が継続。太閤園は60周年記念プランやチャペルリニューアル告知効果等により、人員・単価ともに前年比増。
- ・ 宴会部門は、ホテル椿山荘東京の組織の見直しやスタッフ数を増強するなど営業体制強化を推進中だが、婚礼部門の減収傾向を補うまでには至らず。

【第4四半期】

- ・ 年内宴会の獲得や婚礼単価アップを図り、宿泊部門は引き続き個人客の取込に注力する。

【婚礼・宴会】 前年および計画との対比 (7月～9月)

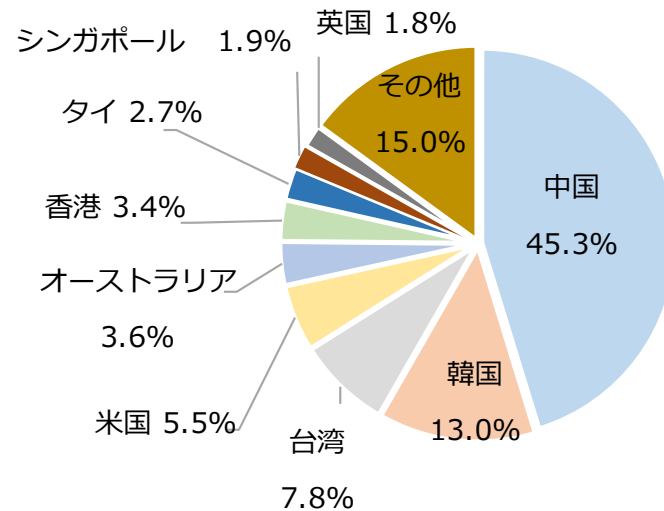
	婚礼				宴会			
	人員		一人あたり単価		宴会人員		一人あたり単価	
	前年比	計画比	前年比	計画比	前年比	計画比	前年比	計画比
ホテル 椿山荘東京	▲4.5%	▲3.8%	▲3.1%	▲4.1%	▲7.1%	▲14.6%	+5.3%	+9.0%
太閤園	+14.3%	▲9.1%	+3.5%	+2.9%	+6.2%	▲10.4%	+5.4%	+8.2%

【宿泊】 前年および計画との対比 (7月～9月)

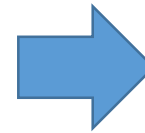
	ADR		稼働率	
	前年比	計画比	前年比	計画比
ホテル椿山荘東京	+8.4%	+5.7%	▲5.3pt	▲4.4pt

◆当社グループインバウンド数 国別シェア◆

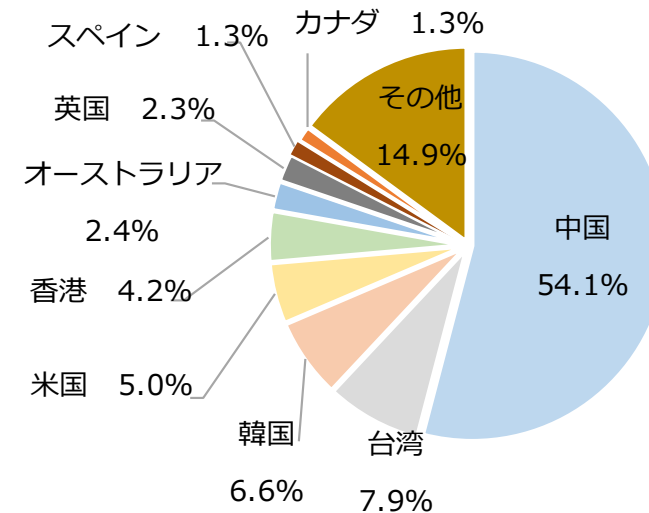
2019年1～6月



宿泊者 約93万名
(前年比1万名増加)



2019年3Q (7～9月)



宿泊者 約49万名
(前年比3千名増加)

■ 2019年開業事業所

- 7/1 ホテルグレイスリー大阪なんば (170室)
- 7/26 永平寺 親禅の宿 柏樹関 (はくじゅかん) (18室)
- 8/1 ホテルタビノス浜松町 (188室)
- 11/1 ISORAS CIKARANG (イソラス チカラン)
※インドネシア サービス・アパートメント (214室)

■ 2020年以降の開業予定

<2020年>

- 5月 ホテルタビノス浅草 (278室)

<2021年>

- ホテルグレイスリー台北 (248室)



ホテルグレイスリー大阪なんば



ホテルタビノス浜松町



永平寺 親禅の宿 柏樹関



ISORAS CIKARANG

通期業績予想

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属 する四半期純利益 (百万円)
前回発表予想 (8/6)	70,300	900	900	300
今回修正予想	68,500 ~69,500	△200 ~200	△200 ~200	△400 ~0
増減額	△1,800 ~△800	△1,100 ~△700	△1,100 ~△700	△700 ~△300

修正理由：

当社の主要事業である宿泊部門におきましては、日韓関係悪化に伴い韓国人宿泊利用者が大幅に減少したほか、これに起因し競合各社間でのインバウンド獲得競争が激化するなど、足元は厳しい事業環境へ変化しており、客室稼働、客室単価が当初想定の水準を下回る見込みです。

また、本年9月10月に発生した大型台風（9月台風15号、10月台風19号）により、当社グループの施設も関東地方を中心に建物設備等に被害を受けました。現時点では、全ての施設が営業を再開しておりますが、特に神奈川県箱根町では、温泉供給配管や敷地内駐車場の破損等が発生し、一時的な営業休止やキャンセル等、機会損失も発生しました。

なお、今後の見通しについては、台風被害による今後の需要減退影響や、復旧にかかる工事範囲が当社敷地外の河川や国道部分に及び、各所管の行政機関との協議等を要することなど不透明な部分を考慮し、業績予想数値は、レンジでの開示とし、売上高は685億円~695億円、営業利益、経常利益はともに△2億円~2億円、親会社株主に帰属する当期純利益は△4億円~0億円とさせていただきます。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。

参考資料

上場取引所	東京証券取引所市場第一部
社名	藤田観光株式会社
証券コード	9722
単元株式数	100株
事業年度	毎年1月1日～12月31日
基準日	12月31日
配当金支払株主確定日	12月31日および中間配当を実施するときは6月30日
定時株主総会	毎年3月
発行済株式の総数	12,207,424株
発行可能株式総数	44,000,000株
決算期	毎年12月31日

WHG事業グループ

<<ホテル【客室：10,990室（開業予定+526室）>>

仙台ワシントンホテル
浦和ワシントンホテル
秋葉原ワシントンホテル
新宿ワシントンホテル 本館
東京ベイ有明ワシントンホテル
横浜桜木町ワシントンホテル
横浜伊勢佐木町ワシントンホテル
関西エアポートワシントンホテル
広島ワシントンホテル
キャナルシティ・福岡ワシントンホテル
長崎ワシントンホテル
(2019年12月22日営業終了)

山形七日町ワシントンホテル (FC)
山形駅西口ワシントンホテル (FC)
会津若松ワシントンホテル (FC)
郡山ワシントンホテル (FC)
燕三条ワシントンホテル (FC)
立川ワシントンホテル (FC)
宝塚ワシントンホテル (FC)
佐世保ワシントンホテル (FC)
木更津ワシントンホテル (FC)

ホテルフジタ福井
ホテルフジタ奈良

ホテルグレイスリー札幌
ホテルグレイスリー新宿
ホテルグレイスリー銀座
ホテルグレイスリー田町
ホテルグレイスリー浅草
ホテルグレイスリー京都三条（北館・南館）
ホテルグレイスリー大阪なんば
ホテルグレイスリー那覇
ホテルグレイスリーソウル

ホテルタビノス浜松町
ISORAS CIKARANG (イソラス チカラン)

ホテルタビノス浅草 (2020年5月開業予定)
ホテルグレイスリー台北 (2021年開業予定)

いわきワシントンホテル (MC)
新宿ワシントンホテル 新館 (MC)

新規事業

<<ホテル【客室：46室】>>

藤乃煌 富士御殿場
Nordisk Village Goto Islands
永平寺 親禪の宿 柏樹閣 (はくじゅかん)

<< レストラン >>

和食 折紙 浅草

会員制リゾートホテル

<<ホテル【客室：460室】>>

ウイスタリアンライフクラブ ヴェルデの森・箱根
ウイスタリアンライフクラブ 熱海
ウイスタリアンライフクラブ 宇佐美
ウイスタリアンライフクラブ 鳥羽
ウイスタリアンライフクラブ 野尻湖
ウイスタリアンライフクラブ プロミネント車山高原

海外現地法人・駐在員事務所

上海・広州・台北・ジャカルタ・ヤンゴン

リゾート事業グループ

<<ホテル【客室：342室】>>

箱根小涌園 天悠 (てんゆう)
箱根小涌園 美山楓林 (みやまふうりん)
伊東小涌園
伊東 緑涌 (りよくゆう)
由布院 緑涌 (りよくゆう)
(2020年3月1日営業終了)

ホテルやまなみ (MC)
十和田ホテル (MC)
湯河原温泉ちとせ (MC)

<< レストラン >>

箱根小涌園 蕎麦 貴賓館
箱根小涌園 鉄板焼・しゃぶしゃぶ 迎賓館
レストラン あかしあ亭

<< レジャー >>

箱根小涌園ユネッサン
箱根小涌園 森の湯
下田海中水族館

ラグジュアリー&バンケット事業グループ

<<ホテル【客室：267室】>>

ホテル椿山荘東京

<< 婚礼 >>

太閤園
桜苑
The South Harbor Resort
ルメルシェ元宇品
マリーエイド
マリコレ ウェディングリゾート
鞆ヶ谷ガーデン アグラス
オペラ・ドメーヌ高麗橋

<< レストラン >>

シビックスカイレストラン椿山荘
東京大学 伊藤国際学術研究センター内レストラン (MC)
明治大学 紫紺館 フォレスト椿山荘 (MC)
エフエム東京 JET STREAM (MC)
エフエム東京 CORNET (MC)

<< レジャー >>

カメラアヒルズカントリークラブ

IR担当部門 (お問合せ先)

藤田観光株式会社 企画グループ広報担当

藤石 ・ 吉永 ・ 塩澤

TEL : 03-5981-7703

Mail : h-koho@fujita-kanko.co.jp

注意事項 :

当資料は藤田観光グループの業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。また、注記を行っている場合を除き、2019年9月30日現在のデータに基づいて作成しております。尚、当資料に掲載された予測等は作成時点での当社の判断であり、経営環境の変動により今後変更される可能性がありますのでご了承ください。当資料の転載はご遠慮ください。